

比較するということ、比較されるということ

桑野小学校

六年

よこた  
横田 いおり  
唯織

(敬称略)

「この子のほうが。」この言葉を家でも、学校でも耳にする。私は、双子の姉だが、よくその妹と比べられる。習い事でも、行動でも、勉強でも、運動でも。比べられるたびに、できない自分、妹に追いつけない自分を責めてしまう。反対に妹よりできるところがあると、喜んでしまう自分がいる。

私が一番心に残っていることは、学校の体力測定の時、一人の友達に、「妹のほうが運動神経いいんやな。」と言われたことだ。確かに結果は自分のほうが記録が低かった。しかし、面と向かって言葉にされると、どう反応したら良いか分からず何も言い返せなかった。私は呆然とし、比べられることの悲しさや辛さを知った。このことを体験してから、比べられる度に、心に傷がついていくような気がした。言った友達は、双子は、何をしても全部一緒だと思っているのだろうか。人は個性があり、その個性がみんな違うから、それぞれが違う場所で活躍でき、一人一人の生き方をすることができると考えている。

体力測定以外にも、習い事で「妹のほうが上手。」と言われた時は、悔しさと悲しさで胸がいっぱいになった。それと同時に恥ずかしくも感じた。それは、自分の中に「姉」はできて当たり前、という基準があるからなのかもしれない。お母さんにそのことを伝えると、

「結果を比べるより、誰が何を言おうと自分なりに頑張ったと思えたら、どんな結果でも納得するんじゃない？」

と言われた。その時は、私だつて頑張っているのに、と少し不満に思った。でも、時間が経ち、ふと思いついた時、自分の考えにはっとした。私が一番比べていたのかもしれない。「妹より自分のほうが記録が低い」とか、「妹のほうが上手」とか、周りから自分がどんな位置にいるのか、どう見られているのかを気にしてしまい自分のやり方で努力ができていなかったことに気がついたのだ。お母さんが言っていた意味が、後になってやっと理解できた。

これらを通して、相手の気持ちを考えて言葉を発することや、マイナスな比べ方ではなく、昔の自分と今の自分を比べるみたいにな、より自分のためになるようなプラスの比べ方をして、成長していくことが大切だと思っ

た。これからは他人と比べるより、自分の目の前にある、今できることに  
もっと目を向ける努力をしていきたい。そして、誰かが傷つくような比べ  
方、それを面と向かって、陰でも言葉にして自分も人を傷つけないよう  
にしたいと改めて思った。

みなさんも何気なく伝えている言葉は本当に相手を傷つけていないだ  
ろうかと、言葉にする前に一度考え、想像してほしい。自分の中のものさ  
しだけで人を図らないでほしい。比べられることで嫌な思いを感じる人、  
その他にも悲しい思いや辛い思いをした人が、この世の中から少しでも減  
り、みんなが生きやすい社会になってほしいと願っている。